

レッドリスト見直しの経緯と検討体制

見直しの経緯

野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから、環境省では、昭和 61 年度より「緊急に保護を要する動植物の種の選定調査」を行った。その結果を踏まえ、動物については平成 3 年に環境省版レッドデータブック「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 脊椎動物編」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 無脊椎動物編」を取りまとめた（レッドデータブックとは、レッドリストに基づき生息状況等を取りまとめ編纂した書物である。）

平成 7 年度には国際自然保護連合（IUCN）で採択された新しいカテゴリー（ランク）の考え方を踏まえて、動物についてはレッドリストの見直し、植物については新たに選定に着手し、動物では 哺乳類 鳥類 爬虫類 両生類 汽水・淡水魚類 昆虫類 貝類 その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）、植物では 植物（維管束植物）及び 植物（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）の 10 分類群ごとに、平成 9 年度～12 年度にかけて順次レッドリストを公表した（動物については 2 回目、植物については初めての公表）。

また、このレッドリストを元に、分類群ごとのレッドデータブックを平成 12 年度～18 年度に発行した。

平成 14 年度より 2 回目のレッドリストの見直し作業に着手し、平成 18 年 12 月に鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物の 4 分類群、平成 19 年 8 月に残りの哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物（維管束植物）及び植物（維管束植物以外）の 6 分類群のレッドリストを公表した（動物については 3 回目、植物については 2 回目の公表）。

新たにレッドリストに掲載された種や、カテゴリーが変更された種については、現行レッドデータブックの付属説明資料を作成した。

今回のレッドリスト見直しは、これらの見直しに引き続き、3 回目となる。平成 20 年度より作業に着手し、前回見直し後の生息・生育状況や生息・生育環境の変化等の最新の知見を収集し検討を行ってきた。今回は、平成 24 年 8 月に公表した 9 分類群のレッドリストに続き、汽水・淡水魚類について見直し作業が終了したので公表するもの。本公表で全ての分類群の見直しが終了した。

（動物については 4 回目、植物については 3 回目の公表となる。）

また、今回公表した第 4 次レッドリストに基づき、レッドデータブックの改訂版を作成することとしている（平成 26 年発行予定）。

検討体制

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会の下に分類群毎に分科会を置いて検討を行った。検討員については以下のとおり。(50音順、 は座長)

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 検討員

石井 信夫	東京女子大学現代教養学部 教授
石井 実	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授
柏谷 博之	独立行政法人国立科学博物館 名誉研究員
近藤 高貴	大阪教育大学教育学部 教授
藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学大学院農学研究科 教授
松井 正文	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
馬渡 駿介	北海道大学 名誉教授
矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院 教授

絶滅のおそれのある野生生物種の選定・評価検討会 汽水・淡水魚類分科会

河村 功一	三重大学大学院生物資源学研究科 准教授
後藤 晃	北海道教育大学函館校 特任教授
小早川 みどり	西南学院大学 非常勤講師
清水 孝昭	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 主任研究員
杉山 秀樹	秋田県立大学生物資源学部 客員教授
鈴木 寿之	兵庫県立川西緑台高等学校 教諭
瀬能 宏	神奈川県立生命の星・地球博物館 専門研究員
立原 一憲	琉球大学理学部海洋自然科学科 准教授
針生 勤	釧路市立博物館 学芸員
細谷 和海	近畿大学大学院農学研究科 教授
前畑 政善	神戸学院大学人文学部 教授